

母性看護学実習における看護学生のストレスの緩和をはかる教員の指導要因についての検討

The Examination about the Guidance Factor of a Teacher Measuring Relaxation of the Stress of the Nursing Student on the Maternity Practice

本多 洋子, 石沢 敦子

要 約

前期に母性看護学実習を体験した女子学生に、母性看護学実習でのストレスは何か、教員の指導をどう受け止めているのかを知るためにアンケート調査を行ったところ、学生は、母性看護学実習で「人間関係」、「実習環境」、「看護過程」、「知識のなさ」にストレスを感じていた。そして、「患者の世話は楽しい」「患者とのコミュニケーションは苦手ではない」ものの、「事前学習など勉強が苦手」「看護計画など立案が苦手」であった。教員の指導については、「公平性」「患者ケアの指導」「決まりごとの指導」「必要時、指導者等に調整」についてはやや高い評価で受け止めていた。学生が実習をやりやすくなると思われる教員の指導の要因は、「調整力」「技術指導」「相談しやすさ」であった。

キーワード：看護学生、実習ストレス、教員の指導

はじめに

看護学生（以下学生とする）は、臨地実習において看護師に必要な知識や考え方、技術、態度を獲得していく。その過程で学生は、各看護学の実習ごとに新しい環境に慣れていくが、そこで出会う患者・臨床指導者・病院スタッフとの新たな人間関係を確立し、自分が行う看護技術の根拠や方法の指導を受け、実施していくその過程ではストレスを感じる事が多いであろう。

これまでの臨地実習とストレスの研究では、学生のストレス源として、「看護能力不足」「実習先の指導者および教員との関係」「患者と家族との関係」「グループ学生との関係」¹⁾や、「実習記録に時間がかかる」「ナースとの関係」「知識技術の不足」²⁾などが指摘されていた。

本学の母性看護学実習（以下、母性実習とする）では、2週間の実習期間に2つの事例の受け持ち、看護を実践する。新生児・褥婦を理解し、看護計画を立案、実施・評価を行うという過程ではどんなストレスを感じているのだろうか。また、教育効果を上げようと指導している教員の指導についてどのように受け止めているのだろうか。この点を明らかにすることにより、

学生が感じやすいストレスの内容、学生の実習に対する反応や教員の指導の重点のかけ方を工夫し、学生の個性に応じた指導に役立つのではないかと考える。

本学の母性実習施設は3施設で、そのうちの2施設を2名の教員が1施設ずつ担当しているが、調査結果は施設、教員別に分けずに考察した。なお、今回の研究では調査対象は、男子学生には母性看護学実習中に性に関するストレスも加わる^{3) 4)}ため女子学生のみとした。

研究目的

母性実習における学生のストレスの実際と教員の実習指導の受け止めを知ることで、今後の実習指導の一助とする。

研究方法

1. 対象

前期の母性実習を経験した3年生9グループ45名中、女子学生43名。

2. 調査期間

2007年4月16日から9月14日。

3. 調査方法

①母性実習で感じたストレス、②母性実習に対する

学生の反応, ③母性実習での教員の指導についての反応を自作のアンケート結果から調査し, 母性実習のストレス, 母性実習の反応と母性看護学担当教員(以下母性教員とする)の指導に対する反応との関係を考察した. 統計処理は, SPSS 11.0 for windowsにて行った.

4. 倫理的配慮

研究の目的, および, アンケートと実習の成績とは関係ないこと, データは数量的に処理し個人が特定されることはないこと, 研究終了後はデータを責任を持って廃棄することを説明し, 協力を得た.

5. 用語の定義

ストレス：ストレスを引き起こす出来事

結果と考察

1. 対象の背景

(1) 43名の学生のうち, 調査に協力してくれた学生は32名, 回収率74.4%であった. 全員, 職業経験はなく, 17名が群馬県出身であり, その他の学生は近県出身者であった. 16名が自宅から, 15名がアパートから通学しており, 1名は未記入であった.

2. 母性実習でのストレス

母性実習で感じたストレス(以下ストレスとす)について上位3つをあげてもらったところ, 32名中27名の学生が1つから3つのストレスについて記述していた. 残りの5名の学生は何も記述のなかったものが4名, ストレスはなかったと答えたものが1名であった.

1) ストレッサーについて(表1)

(1) 記述されたストレスの数は全部で59であった.

(2) ストレッサーの分類

59のストレスを分類し, 表1に示した.

表1. ストレッサーの分類

| | カテゴリー | ストレスの内容 | 数 |
|---|-------|-------------------------------------|----|
| 1 | 人間関係 | 指導者, スタッフ, 共同生活, 教員, 患者との関係, 気を使うなど | 22 |
| 2 | 実習環境 | 実習環境, 実習先が遠い, 実習場所など | 11 |
| 3 | 知識 | 事前学習, 知識のなさ, 報告など | 11 |
| 4 | 看護過程 | 記録の書き方, 記録が多い, 記録の重複, 看護過程など | 10 |
| 5 | 見学 | 手術見学, 帰室指導見学 | 2 |
| 6 | 睡眠 | 睡眠不足, 眠気 | 2 |
| 7 | 看護技術 | 看護技術 | 1 |

「人間関係」に関するストレスが最も多く, 次いで「実習環境」と「知識」, 4番目が「看護過程」であった.

2) 母性実習を終えた学生のストレスの結果の分析

学生は, なれない実習環境のなかで実習指導者を含むスタッフに緊張し, 実習病院が遠いことから病院の寮での共同生活のなかで友人にも気を使い, 教員や患者にも気を使うという人間関係や実習環境に関する物である.

次に母性看護に関する知識のなさである. 母性の対象の理解には多くの情報収集や観察とそれらの情報の判断には多くの知識を必要とする. 学生は観察したことを報告し, 判断や根拠を指導者に聞かれても即答できないこともあり, そのことに強くストレスを感じたものと思われる.

看護過程のカテゴリーでは, 特に記録物の多さや重複が多くあげられていた. 1週間に一組の褥婦・新生児を受け持ち, その対象の看護ニーズを把握するには, 現在の状態のみでなく, その前の長い妊娠期間や分娩時の状態も把握する必要がある. そのため, 記録用紙が多く, 短い受け持ち期間のなかで, 初めて褥婦・新生児の観察や援助技術を行いながら, それを記録していくことを大変と感じていることがわかった. また, 記録用紙の重複については, それぞれの記録用紙の意味が学生にわかっていても, 同じような記録をしていると思われるということが考えられる.

3. 母性実習に対する学生の反応(表2)

母性実習に対する学生の反応についてのアンケート項目は, 母性実習に必要と考えられる知識・技術, 対人関係力, 実習達成度に関する9項目で, 全くそうではない1, あまりそうではない2, まあそうである3, 大体そうである4, 全くそうである5の5段階で回答を求めた. 項目ごとに平均値を算出したところ, 母性実習に対する学生の反応で良好だったのは, ①「患者の世話をするのは楽しい」3.63で, 次いで②「患者とのコミュニケーションは苦手である*」3.75であった. 反応が良好でなかった項目は, ①「記録の書き方がわからない*」同じく①「実習では緊張し, 実力が発揮できない*」2.00, ③「看護計画や行動計画の立案は得意である」が2.12「④「事前学習など勉強が苦手*」2.84などが低かった.(逆転項目の数値は調整している)

以上の結果から考えると, 母性実習では新生児はかわいくて患者の世話をするのは楽しく, 看護の対象が健康障害者でないことからコミュニケーションも苦手ではなかった. しかし, 対象は特に心身に異常がない

ことから、問題解決型の看護では看護計画が立案しづらく、看護計画や行動計画の立案がやや苦手で、病棟スタッフへの緊張もあり、自分の考えを人に伝えるのがやや苦手に思えて、自分の臨地実習がうまくいっているとはあまり思えない状況になったと考えられた。

表2. 母性実習に対する学生の反応 N=32

| 項目 | 最小 | 最大 | 平均値 | 標準偏差 |
|------------------|----|----|------|------|
| 看護計画など得意 | 1 | 5 | 2.12 | 0.75 |
| 事前学習は苦手* | 2 | 5 | 3.16 | 0.85 |
| 患者とのコミュニケーション苦手* | 1 | 5 | 2.25 | 0.88 |
| 実習は緊張* | 2 | 5 | 3.00 | 0.84 |
| 自分の考えを伝えるのが苦手* | 1 | 5 | 2.63 | 0.83 |
| 記録の書き方がわからない* | 1 | 5 | 3.00 | 0.95 |
| スタッフは学生見守り | 1 | 5 | 2.56 | 1.05 |
| 実習はうまくいっている | 1 | 4 | 2.44 | 0.95 |
| 患者の世話は楽しい | 3 | 5 | 3.63 | 0.61 |

注) *印は逆転項目である。

4. 母性教員の指導に対する反応 (表3)

1) 母性教員の指導について

アンケート項目は、行動計画や看護計画等に関する知識と判断力の指導、母性看護技術指導、患者や病棟スタッフとの調整、指導の適切性、公平性、相談しやすさに関する10項目で、全くそうではない1、あまりそうではない2、まあそうである3、大体そうである4、全くそうである5の5段階で回答を求めた。

教員の指導の反応では、逆転項目を調整して10項目すべての平均値が「まあそうである」の3以上を示した。(以下、平均値の数値は調整値を表示)

高い平均値を示した項目は、①「患者ケアの技術の指導をしてくれる。」3.86、②「学生の意見を尊重してくれない*」3.81、③「決まり事をきちんと守るよ

表3. 教員の指導に対する反応 N=32

| 項目 | 最小 | 最大 | 平均値 | 標準偏差 |
|--------------------------|----|----|------|------|
| 教員の指導は適切 | 1 | 5 | 3.25 | 0.95 |
| 根拠に基づいた計画の指導である | 2 | 5 | 3.09 | 1.00 |
| 必要、指導者に時調整してくれる | 1 | 5 | 3.31 | 1.15 |
| 患者ケアの技術の指導をしてくれる | 2 | 5 | 3.86 | 1.03 |
| 決まり事を守るよう指導 | 2 | 5 | 3.66 | 0.83 |
| 看護行為の根拠に基づいた指導である | 2 | 5 | 3.28 | 0.89 |
| 学生の意見を尊重してくれない* | 1 | 4 | 2.19 | 1.03 |
| 人の意見を聞き、自分の言葉で伝えるよう指導される | 2 | 5 | 3.22 | 0.79 |
| どの学生にたいしても公平であるとはいえない* | 1 | 5 | 2.41 | 1.27 |
| 教員に声がかげやすく、相談しやすい | 1 | 5 | 3.13 | 1.43 |

注) *印は逆転項目である。

う指導してくれる」3.66、④「どの学生に対しても公平であるとはいえない*」3.59、⑤「必要時、指導者に調整してくれる」3.31であった。

2) 教員の指導の結果

上記の結果から、おおむね教員の指導には良好に受け止めていると思われる。しかし、1や2の評価が全項目にあることについては、教員と学生の関係は相互作用であることから、学生の性格や対処機制などを見極めて指導にあたる必要がある。

5. 「母性実習がうまくいっていると思われる」要因の検討 (表4)

1) 母性実習に対する反応の要因間の相関関係

母性実習に関する反応の要因間の相関関係をピアソンの相関係数で検定したところ、以下の相関が見られた。

(1) 「実習がうまくいっている」という要因には「記録の書き方がわからない*」($p=-0.39$, 有意水準5%)と負の相関があり、「病棟スタッフは学生のことを見守ってくれていると思う」($p=0.46$, 有意水準1%)と正の相関がある。

(2) 「実習は緊張して実力が発揮できない」という要因には、「自分の考えを人に伝えるのは苦手ではない」($p=-0.51$, 有意水準1%)と負の相関があり、「記録の書き方がわからない」($p=0.36$, 5%有意水準)と正の相関がある。

(3) 「記録の書き方がわからない」という学生は、「スタッフは学生を見守ってくれていると思う」($p=-0.39$, 5%水準)に負の相関、「実習がうまく言っていると思う」($p=-0.39$, 5%水準)にも負の相関がある。

(4) 「学習は苦手である」という学生は、「自分の考えを人に伝えるのは苦手ではない」($p=0.36$, 5%水準)と正の相関があった。

(5) 「看護計画や行動計画の立案が得意」、「患者との関係は苦手である」、「患者の世話は楽しい」はどの要因間とも相関はなかった。

2) 母性実習の反応の要因間の検討結果

「記録の書き方もわからなくはなく」、「病棟のスタッフは学生を見守り」と「実習がうまくいった」との相関から、「記録の書き方」が苦手ではない学生は、「病棟スタッフ」に報告や相談をしても良い印象を持ち、そのことから「実習がうまくいった」という気持ちにつながったと思われる。

「実習は緊張して実力が発揮できず」、「自分の考えを伝えるのが苦手」、「記録の書き方がわからない」との相関は、「記録の書き方がわからない」と「自分の考えを人に伝えるのはむずかしい」であろうし、その

ことが実習の苦手意識をもつであろうし、結果として「実習は緊張し、実力が発揮できない」という気持ちになったのであろう。

「記録の書き方がわからない」、「病棟スタッフは見守り」、「実習がうまくいっているとは思わない」との相関は、「記録の書き方がわからない」と、なにをどう報告してよいか迷い、「病棟スタッフ」から注意されたりするであろうことから、「病棟スタッフ」へ良い感情がもてず、「実習がうまくいったとは思えない」結果につながっていると思われる。

7. 教員の指導と学生の反応との検討

1) 教員の指導について

教員の指導と学生の実習の反応との相関をピアソンの相関係数で検定したところ以下の相関が見られた。
(1) 「必要時、指導者やスタッフと調整してくれる」という教員の指導には、「実習は緊張して実力が発揮できない」($p=-0.40$, 5%有意水準)と負の相関があり、「患者の世話は楽しい」($p=0.40$, 5%有意水準)、「実習はうまくいっている」($p=0.37$, 5%有意水準)と正の相関があった。

(2) 「患者のケアについてくれ、技術など指導してくれる。」という教員の指導には、「実習はうまくいっている」($p=0.65$, 5%有意水準)と正の相関があった。

(3) 「教員には声がかけやすく、相談しやすい。」には、「実習は緊張して、実力が発揮できない。」($p=-0.37$, 5%有意水準)と負の相関があった。

2) 教員の指導について検討結果

(1) 教員の「指導者・スタッフとの調整力」

母性実習では、毎日の実習内容は母児のバイタルサインの観察、沐浴、子宮の復古状態や乳房の状態の観察、授乳の観察などである。しかし、それは学生ひとりで行なったり判断できるものは少なく、一緒の行ってもらったり、結果についても自分の考えがそれによいのか、確信をもてない。多忙な指導者やスタッフに確認を依頼するのは学生にとって緊張が高いものである。教員が学生の状況を適切にとらえ、調整することが「実習の緊張を緩和」したり、「患者の世話が楽しく」でき、「実習がうまくいっている」という思いにつながっていったと思われる。

(2) 患者ケアの「技術指導」について

前述したように子宮復古状態や乳房の変化の観察、沐浴など、事前学習で知識はあっても、全く初めての体験である。その状態をどのように観察し、判断してよいかわからないことが多い。また、初めて触る新生児の観察や沐浴を練習はしていても実際にはどうして

よいかわからない。教員は、そのことを理解した上で、対象の安全を図りながら技術指導をしている。技術は何度も繰り返せば身についていき、自信がもてる。しかし、2週間の短い実習期間の中でも、受け持ちは1週ごとに変わる。対象が変わることで、教員は学生が安全に実施できるかどうかを見極めて指導している。学生にはそれが安心につながり、「実習がうまくいっている」と考えることにつながると思われる。
(3) 「相談しやすさ」について

「実習は緊張して実力を発揮できない」という学生は、「記録が苦手」で「自分の考えを人に伝えるのが苦手」であると実習の反応の要因間の相関で現れている。そうした学生は、教員に記録や報告などについて相談しなければならないことが多い。教員は、実習がうまくいくよう、そのような学生を見極めて、指導していることが学生にとって、相談しやすく、実習の緊張が緩和するように感じられていると考えられる。

まとめ

1. 学生の母性実習でのストレスは、人間関係、実習環境、知識、看護過程であった。
2. 母性実習に対する学生の反応は、患者の世話をするのは楽しく、患者とのコミュニケーションは苦手ではないが、自分の考えを伝えるのは苦手、スタッフは学生を見守ってくれているとは思えず、臨地実習はうまくいっているとは思えなかったということであった。
3. 教員の指導に対する反応は、おおむね学生に受け入れられていたが、なかには低い評価をしている学生もあった。
4. 学生が自分の実習がうまくいったと思える実習要因は、記録の書き方、病棟スタッフの見守りであった。
5. 教員の指導と学生の反応から、教員の指導者やスタッフとの調整、患者ケアの技術指導、相談しやすさが、学生の実習での緊張を和らげ、患者のケアの楽しさ、実習がうまくいっていることに役立っていることがわかった。

引用文献

- 1) 加島亜由美：臨地実習におけるストレスとその対処法。九州看護福祉大学紀要, 7 (1) : 5-13. 2005.
- 2) 正村啓子ら：看護学生の臨床実習中のストレス要因に関する研究。山口医学, 51 (3) : 84-85, 2002.
- 3) 本多洋子：男子学生の分娩見学の学びの分析。平

成18年度群馬県母性衛生学会研究集会収録集, 2006.

- 4) 増田昌恵ら：男子学生の母性看護学実習前後における意識調査. 日本看護学会「看護教育」37号：75-77, 2007.
- 5) 竹下恵子：看護学生の臨地実習におけるソーシャ

ルサポートとしての教員の支援の検討. 日本看護学教育学会誌, 15 (3) : 23-35, 2006.

- 6) 藤岡完治, 屋宜譜美子：看護教育と臨地実習指導者. 医学書院 (東京), 8-19, 2004.
- 7) 山本浩子：魅力ある臨地実習とするために. 看護教育, 43 (6) : 448-450, 2002.

表4. 実習の反応の要因間の相関

| 実習の反応 | | 計画立案得意 | 事前学習苦手 | 患者コミュニケーション苦手 | 実習は緊張 | 考えを伝える苦手 | 記録の書き方苦手 | スタッフは学生を見守り | 実習はうまくいっている |
|---------------------|------|--------|--------|---------------|---------|----------|----------|-------------|-------------|
| 事前学習 苦手 | 相関係数 | 0.07 | | | | | | | |
| | 有意確率 | 0.70 | | | | | | | |
| 患者コミュニケーション 苦手 | 相関係数 | 0.20 | -0.1 | | | | | | |
| | 有意確率 | 0.28 | 0.60 | | | | | | |
| 実習は緊張 | 相関係数 | 0.31 | 0.14 | -0.04 | | | | | |
| | 有意確率 | 0.09 | 0.46 | 0.81 | | | | | |
| 考えを伝える 苦手 | 相関係数 | 0.03 | 0.36* | 0.04 | -0.50** | | | | |
| | 有意確率 | 0.89 | 0.04 | 0.81 | 0.00 | | | | |
| 記録の書き方 苦手 | 相関係数 | 0.09 | 0.24 | 0.08 | 0.36* | 0.0 | | | |
| | 有意確率 | 0.62 | 0.18 | 0.67 | 0.04 | 1.0 | | | |
| スタッフは 学生を見 守り | 相関係数 | 0.28 | -0.10 | 0.02 | -0.11 | 0.06 | -0.39* | | |
| | 有意確率 | 0.12 | 0.58 | 0.92 | 0.55 | 0.72 | 0.03 | | |
| 実習はうまく いっている | 相関係数 | 0.33 | -0.05 | 0.14 | -0.28 | 0.17 | -0.39* | 0.46** | |
| | 有意確率 | 0.07 | 0.80 | 0.46 | 0.12 | 0.34 | 0.03 | 0.01 | |
| 患者世話は 楽しい | 相関係数 | 0.04 | -0.01 | -0.18 | -0.13 | 0.22 | 0.17 | 0.04 | -0.04 |
| | 有意確率 | 0.85 | 0.97 | 0.32 | 0.49 | 0.22 | 0.36 | 0.84 | 0.82 |

注) * 相関は、5%水準で有意(両側)、** 相関は、1%水準で有意(両側)

表5. 教員の指導と学生の実習の要因との関連

| 実習の反応 | | 計 画 立 案 得 意 | 事 前 学 習 苦 手 | 患 者 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 苦 手 | 実 習 は 緊 張 | 考 え を 伝 え る 苦 手 | 記 録 苦 手 | ス タ ッ プ は 学 生 を 見 守 り | 実 習 は う ま く い っ て い る | 患 者 世 話 楽 し い |
|------------------------|------|-------------------|----------------|---------------------------------|--------------|--------------------------|------------|-----------------------------|--------------------------------|------------------|
| | | | | | | | | | | |
| 指導は適切 | 相関係数 | 0.09 | 0.23 | 0.04 | -0.28 | 0.29 | -0.07 | 0.15 | 0.23 | 0.17 |
| | 有意確率 | 0.62 | 0.20 | 0.83 | 0.12 | 0.11 | 0.70 | 0.42 | 0.20 | 0.36 |
| 根拠に基づ いた計画 指導 | 相関係数 | 0.16 | 0.14 | 0.12 | -0.08 | 0.20 | 0.17 | 0.16 | 0.23 | 0.17 |
| | 有意確率 | 0.39 | 0.46 | 0.51 | 0.68 | 0.27 | 0.35 | 0.37 | 0.21 | 0.36 |
| 必要時、指 導者に調整 | 相関係数 | 0.18 | 0.01 | 0.08 | -0.40 * | 0.33 | 0.00 | 0.12 | 0.37 * | 0.40 * |
| | 有意確率 | 0.33 | 0.94 | 0.66 | 0.02 | 0.07 | 1.00 | 0.52 | 0.03 | 0.02 |
| 患者ケアの 技術指導 | 相関係数 | -0.34 | -0.19 | -0.44 | -0.29 | -0.01 | -0.26 | 0.19 | 0.65 * | 0.15 |
| | 有意確率 | 0.24 | 0.51 | 0.11 | 0.31 | 0.96 | 0.37 | 0.52 | 0.01 | 0.60 |
| 決まり事の 指導 | 相関係数 | 0.23 | 0.17 | -0.01 | -0.14 | 0.23 | -0.12 | 0.34 | 0.20 | 0.25 |
| | 有意確率 | 0.21 | 0.35 | 0.95 | 0.45 | 0.21 | 0.50 | 0.05 | 0.28 | 0.17 |
| 看護行為の 根拠指導 | 相関係数 | 0.24 | -0.19 | 0.20 | 0.09 | -0.16 | -0.11 | -0.11 | 0.08 | 0.02 |
| | 有意確率 | 0.19 | 0.30 | 0.28 | 0.64 | 0.39 | 0.53 | 0.56 | 0.67 | 0.90 |
| 学生の意見 尊重しない | 相関係数 | -0.07 | 0.11 | -0.20 | 0.22 | -0.14 | -0.07 | 0.02 | -0.15 | 0.06 |
| | 有意確率 | 0.69 | 0.54 | 0.28 | 0.22 | 0.44 | 0.72 | 0.92 | 0.40 | 0.73 |
| 自分の意見 をいえるよ う指導 | 相関係数 | 0.06 | -0.10 | 0.01 | -0.05 | 0.03 | 0.17 | -0.11 | -0.09 | 0.31 |
| | 有意確率 | 0.74 | 0.58 | 0.95 | 0.79 | 0.87 | 0.35 | 0.53 | 0.63 | 0.09 |
| 学生に公平 であるとは いえない | 相関係数 | -0.16 | 0.00 | -0.15 | 0.18 | -0.19 | 0.05 | 0.16 | -0.26 | 0.16 |
| | 有意確率 | 0.39 | 1.00 | 0.41 | 0.32 | 0.30 | 0.77 | 0.37 | 0.15 | 0.38 |
| 相談しやす い | 相関係数 | -0.07 | -0.10 | 0.03 | -0.37 * | 0.07 | 0.00 | -0.13 | 0.17 | 0.02 |
| | 有意確率 | 0.68 | 0.60 | 0.89 | 0.03 | 0.71 | 1.00 | 0.46 | 0.35 | 0.92 |

注) * 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

The Examination about the Guidance Factor of a Teacher Measuring Relaxation of the Stress of the Nursing Student on the Maternity Practice

Yoko Honda, Atsuko Ishizawa

Abstract

The student feels stress in "human relations", "training environment", "making a nursing care plan", and "lack of the knowledge" on Maternity Nursing Practice. And "the care of the patient is pleasant"; "was not weak in the communication with the patient, but" "nursing care plans drafting was a weak point" "a weak point prior learning study". About the guidance of the teachers, we took it by the "equitableness" "guidance" guidance evaluation that was slightly high about "the adjustment for leaders at the time of need" every rule "of the patient cares". We "talked, and, as for the guidance of the teachers that it seemed that it was easy to come to receive practical training in a student,"adjustability" "technical guidance" was easiness of".

Keywords: Nursing student, Stress of maternity practice, Teachers guidance